

# フレキシブル配車・入構指定時刻適正化で待ち時間を削減 茨城県

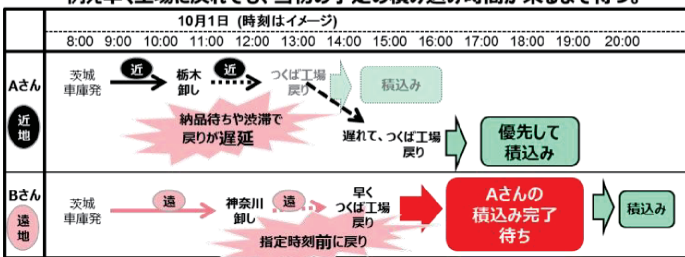
## 1. 実施者の概要

- 荷主企業:(株)LIXIL筑波工場・(株)LIXIL物流  
建材・設備機器の製造・販売および関連サービス業
- 元請運送事業者:(株)LIXIL物流  
(株)LIXILの物流子会社。(株)LIXILに加え、荷主の立場でも参加
- 実運送事業者:(株)関商運輸  
茨城に本社。LIXIL筑波工場発の集合住宅・戸建向けの配送を担っている1社。
- 荷種  
浴槽

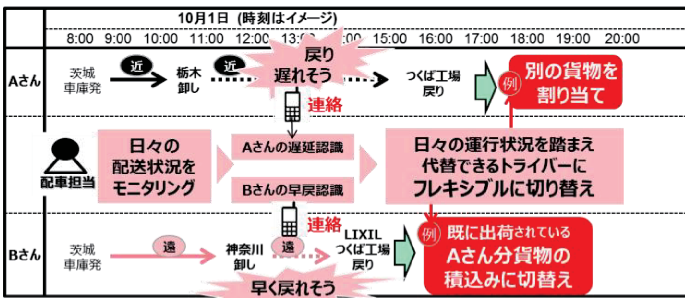
## 2. 事業概要

### [フレキシブル配車]

実験前：日々の配送実態を踏まえ、計画の見直しを行っていないため、  
例えば早く工場に戻れても、当初の予定の積み込み時間に来るまで待つ。



実験中：日々の配送実態を踏まえ、フレキシブルに配車見直し。



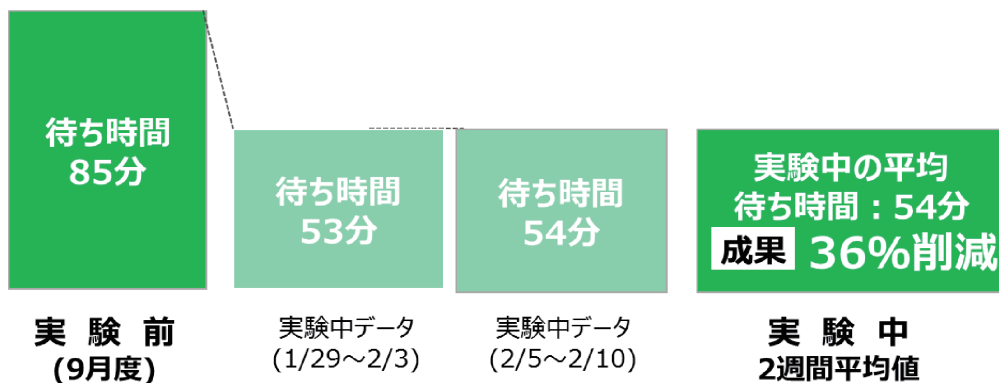
### [入構指定時刻の適正化]

実験前：LIXIL物流で入構指定時刻を決定する際、  
生産部との連携がなく、生産都合での待ちが発生。

緊急度	当日配送希望のお客様は、午前中に完成させ出荷
納入方面	遠地は、より早い時間に完成させ出荷

実験前：LIXIL物流で入構指定時刻を決定する際、  
生産部との連携がなく、生産都合での待ちが発生。

緊急度	当日配送希望のお客様は、午前中に完成させ出荷
納入方面	遠地は、より早い時間に完成させ出荷
追加 生産	生産部と連携。生産能力も考慮。 注：現在、標準生産能力を上回る発注がきた場合、 「生産部判断」で「前倒し生産」をしているが 物流も見据えた平準化できていない。



### 3. 課題

#### フレキシブル配車実施の背景

①日々の配送で、遅延等が発生しても、当初配車計画を見直さない為、累積して「待ち」が発生。

#### 入構指定時刻適正化実施の背景

②お客様からの発注を基に、LIXIL物流にてトラックの工場入構指定時刻を決定。生産遅れ等で「待ち」が発生しているのも関わらず、入構指定時刻を決定する際に、生産部との連携がない。

### 4. 事業内容

#### フレキシブル配車

①納入完了後、空車となったタイミングで、ドライバーが、入構指定時刻と比べて早く戻れそうか、遅れそうかを配車担当に電話連絡。配車担当は、車種・商品特性を踏まえて代替可能なドライバーが見つければ切り替え。

#### 入構指定時刻の適正化

②入構指定時刻の割り付け時間帯を拡充（午前11時前も割付け時間帯に組み込み）。割付け時間帯を拡充する事により、生産の平準化に図り、生産遅れの待ちを撲滅。

### 5. 結果

①「待ち時間」が、36%削減。

実験前平均待ち時間：85分



実験中平均待ち時間：54分



### 6. 荷主企業のメリット

- ①荷主都合で一定の待ち時間が発生した場合に、待機料金を支払っていた事もあり今後、本施策を継続する事で、物流コストの削減に結びつく可能性が大きい。
- ②ドライバーの待ち時間解消の切り口を、生産の平準化に結び付けた事で、ものづくりそのものの整流化も実現。

### 7. 結果に結びついたポイント

- ①荷主企業が、ドライバーの長時間労働抑制に向けた取り組みの必要性を痛感していた。ドライバーの労働環境改善は、物流サービスの安定的確保に通ずるとの思想で活動。
- ②物流事業者も過去から様々な改善活動を実施。改善に対する地盤ができていた。